裾野麗峰山の会・長泉さわやかハイキング山行報告書

文・写真　後藤隆徳

山行番　　ＮＯ．１５０９
日　時　　２０１２．０８．０３（金）～０６（月）
山　域　　南ア・千枚岳（２８８０ｍ）～荒川岳東岳（３１４１ｍ）～赤石岳（３１２０ｍ）～聖岳（３０１３ｍ）
参加者　　後藤隆徳（６５）、村山忠彦（６４）、小松 眞明（５７）、峰田 光江（５７）、河野　光江（５２）

１日目　８月３日（金）快晴　　累計標高差　上り＝約１５２７ｍ・下り＝０ｍ
下土狩発２：３０～畑薙駐車場６：４５～バス７：１５～椹島発８：００－千枚小屋１３：５０（泊）

荒川岳は、１９６６年、私が１９歳の時、初めて上ったＡＬＰＳ。当時は、まだシャトルバスがない時代で、身延から新倉までバスで行き、転付峠（でんつくとうげ）を越えて二軒小屋に入った。その時、見た「車百合」は、印象的でまだ覚えている。
その後、１９７３年１２月２９日～１月６日、冬荒川岳～赤石岳を上った。ここはそれ以来で、実に３９年振りだった。椹島は上高地並みに変わった。
上り易い千枚岳南尾根を上る。清水平は、美味しい清水が出ていた。今日、荒川小屋まで行く岡山の若い衆と話を交わした。千枚小屋下は、大桜草・信濃金盃・深山金鳳花などが咲き誇っていた。ただ、千枚小屋は、過去二回火災に遭い新築されたこともあって、全く当時の面影・記憶がなかった。トイレは水流。
宿泊は８０００－でトイレ代１００－が加算される。ビアはロングが８００－。部屋は大部屋。布団はなく、寝袋と毛布。それ程窮屈でなく、まあまあ快適。夕食は美味しかった。

２日目　８月４日（土）快晴　　累計標高差　上り＝約１０１１ｍ・下り＝約１１０３ｍ
小屋発４：３０－荒川岳東岳６：３５－中岳避難小屋７：４０－荒川小屋９：００－大聖寺平９：４０－赤石岳１１：０５－百間洞１３：１５－百間洞山の家１４：０５（泊）

天気は良かった。富士山が大きい。涼しくて上り易い。荒川岳はガラガラの岩で何となく記憶があった。ただ、東岳の下りが厳しく、こんな所を本当に冬通過したのと思った。中岳避難小屋は管理人がいた。
荒川小屋まで厳しい下り。お花畑は素晴らしかったが、大規模な鹿柵があった。荒川小屋も新装なって、記憶なし。ここから大聖寺平を経て、赤石岳の約５２０ｍの上りが待っていた。

小赤石岳に達した。ここから東尾根が伸びる。赤石岳は指呼の間。赤石岳は大きな山だが案外、山の難しさはない。頂上に着くと単独行がいた。聞けば、今日は兎岳避難小屋まで行くと言う。翌日、ここを歩いたが中々厳しい行程だった。
赤石岳避難小屋も「営業」し、ビアも売っていた。これでは避難小屋でない。昔、この小屋は頂上にあっと記憶する。晩秋、一人で泊まった。夜中に壊れたドアが倒れて、心臓が止まった。

赤石岳頂上

聖岳

赤石岳下り

正面に美しい聖岳を眺め赤石岳を下山。聖岳左に長く伸びるのは東尾根。ここは１９７８年１２月３０日～１月３日、M労山時代上っている。このルートは、聖岳バリエーションとして冬はいいルートである。当時その後、谷川岳烏帽子岩で亡くなった、若かったK君も健在だった。
赤石岳の下りは、物凄いガラガラの「累卵の岩場」だった。やがて百間平着。午後の日差しが暑かった。疲れが出る頃だった。目指す百間洞山ノ家は、どうやら谷底で、もうひと踏ん張り必要だった。コケ易い歩き難い道を辿ると、人声がしてようやく小屋の赤い屋根が見えた。

百間洞山ノ家

東京の
Ｓさん

北海道のＹさん

小屋の前に流れる、赤石沢源流に足を突っ込んで、アイシングをする。気持ち良かった。サイコーの清流だった。下からウエットスーツを着た人が上って来た。赤石沢をやった東京のＳさんで、５０代後半の方だった。すでに、単独で何回かやっているそうだ。格好が奮っていた。キムタク並みのロング茶髪で、とても山屋に見えない。
特に山岳会には入っていないとのこと。下山道を聞いた。赤石沢の場合、一般道を帰ると、３０００ｍの赤石岳か聖岳を越えなければならない。これは沢屋にとって「苦痛」の他ない。彼の下山道は、百間洞山の家すぐ上の北から、大鹿村・小渋川の広河原小屋に下る廃道を利用して、３０００ｍを越えることなく下山するという。地図を確認すると確かに廃道だが、近年まで利用していたようだ。
この道を利用しても、百間洞山の家から伊那バスが通じる道路まで、約１０時間。考えようによっては、３０００ｍを越えた方が楽？？？かも知れないが、とにかく、Ｓさんに敬意を表した次第。ちなみに岩魚は、さっぱりだったそうです。

百間洞山ノ家で交流会

ジャンボ
とんカツ

ビアはロング缶が８００－だったが、気が付いたら４本やってしまった。山の楽しみは、いろいろあるが、やっぱりこれがサイコーでしょうか。（笑い）

隣に御殿場・時の栖のタオルを持っている方がいた。聞けば静岡の方でなく、北海道から来て、主な南ＡＬＰＳ 全山を上ってる最中と言う。まず、北沢峠から甲斐駒～仙丈ヶ岳、下って両俣小屋に行き、上り返して北岳～間ノ岳～農鳥岳、トラバースルートで間ノ岳を捲いて熊ノ平小屋。このトラバースルートは悪かったそうです。そして塩見岳～三伏峠～荒川三山～赤石岳～百間洞山ノ家という感じでこの後、聖をやって下山するとのこと。経費節減で食事は自炊。年齢は６７歳。見た目よりお若い方でした。結局、この方とは翌日聖平小屋でも交流しました。

小屋の夕食は感動的なジャンボとんカツでした。揚げたてで美味しかった。こんな山奥で、こんなものを食べられる世の中に感謝・合掌でした。

３日目　８月５日（日）快晴　　累計標高差　上り＝約７３１ｍ・下り＝約９８１ｍ
小屋発４：４５－兎岳避難小屋７：５０－聖岳１０：２０－奥聖岳１０：４０－聖岳１１：１０
―小聖岳―聖平小屋１３：１５（泊）

兎岳上り（バックは赤石岳）

兎岳頂上

兎岳から聖岳に向かう

天気は良かった。今日の行程は昨日に比べたら楽だ。小屋裏から大沢岳を捲いて、兎岳に向かう。富士山が少し遠くなった。兎岳は大きな山だった。案外と遠い。快晴の頂上で「兎ポーズ」を決める。岩陰に高嶺ビランジが沢山咲いていた。この山は岩質が特異かも知れない。
兎岳を大きく下り、聖岳に上る。今山行最後の大上りだ。途中に避難小屋があった。酷い小屋だった。昨日の単独行はここまで来たのか・・・。兎岳の南面には、更に凄い高嶺ビランジが咲いていた。
キツイ上りでようやく頂上着。記念写真は後にして奥聖岳に向かう。おおむね、皆さん来るようだ。懐かしく、１９７８年冬・東尾根以来の奥聖岳だった。冬の聖岳は、その後も上っているが、その時は、ここまで来なかった。踵を返し、再び聖岳頂上に戻り、記念撮影。そして聖平に下山。小聖岳までは、ガラガラの道で歩く難い。小聖岳も１９９７年、便ヶ島からの冬山以来だった。この辺りは、鹿の足跡が多かった。

聖平小屋に着いたら、仲間が「早くしないとビアがなくなってしまうよ」と言っている。エエ～、山小屋でそんなこともあり～、と思ったが、兎に角、受付に駆けつけた。実は、なくなってしまうビアは「訳あり」ビアだった。通常、ショート缶は５００～６００－。その「訳あり」ビアは、２５０－だった。賞味期限が、

この３月で切れたビアだった。
以前、「日本海オ―トルート」（白馬岳～親不知）をやった時、白鳥山小屋に２年前くらいのビアがあった。誘惑に勝てず、恐る恐る飲んだが、「美味しかった」！！小屋の涼しい日影で変質が少なかったのか。
そんな事を思い出し、半年くらいはどうってことはないと、２０００－＝８本、買った。
味は？？、全く問題なかった。美味しかった。１本は北海道のＹさんに上げて、７本頂きました！！（笑い）
小屋には、以前労山にいた、知人のＨ君が勤務していた。この小屋はトイレが遠いのが難点。夕方、小屋に泊まっていた、Ｍ労山・Ｙさん、Ｎ労山・Ｕさんと交流。我々とは、逆コースだった。

４日目　８月６日（月）快晴　　累計標高差　上り＝所々少しあり・下り＝約１４００ｍ
小屋発４：４５－林道７：５５－バス８：１５－駐車場９：３０－白樺荘―下土狩１４：００

今日も天気は良かった。１０時のバスで帰ればいい、のつもりだったが、次第に欲が出て、８時のバスで帰ろうになり、聖沢を飛ばした。ここのコースタイムは４時間半。結果的に３時間半だった。特にMDさんは頑張って歩いた。ただ、ここは、上ったり下ったりで極めて不効率だ。
前述の聖岳東尾根のベ―スになった出合所小屋は、跡形もなかった。小屋跡を過ぎると右手に林道が見えた。バスを止めるべく、一人先行し林道に降り立った。ところが、バス乗車は椹島まで一旦戻ってくれと張り紙があり、ガックリした。しかし、８時のバスは空席があり、運転手は乗せてくれた。感謝・多謝・深謝！！
温泉は駐車場下の白樺荘。新しく安価。温泉はアルカリでヌルヌル。４日間の疲れを癒してくれた。ビアの味はサイコーだった。今回、皆さん、よく歩きました。ご苦労さまでした。また、行きましょう。